

天正本にみる脇狂言の祝言性と曲目成立の関係

The relationship between the celebration and formation of the play in the Waki-Kyogen
written in the Tensho-bon

楠瀬 由夏
Yuka Kusunose

大妻女子大学大学院 人間文化研究科 言語文化学専攻 修士課程

キーワード：脇狂言, 天正本, 祝言性
Key words : Waki-Kyogen, Tensho-bon, Celebration

1. 研究目的

先行研究とする小笠原恭子(1962)「狂言の語り一つの性格—その祝言性を中心に—」(『日本文学論究』21)は脇狂言の「語り」に着目し、近世期以降の伝書によると「語り」は割合として脇狂言中に最も多く見られその特徴としては囃子物ではない曲に「語り」が入る傾向にあると述べる。

また現存最古の狂言台本とされる天正本において脇狂言的な展開を見せる曲があること、「はやし物」という言葉がテキストに既に見られること、囃子物の曲の筋立てや詞が現行に近い形で記載されていること、和泉流天理本「目ちか米骨」に「此物の渡しやう拍子物のおしへやういづれも末ひろかりと同断シカジカ」と記載があること等から囃子物を持つ曲の固定は早かったのではないかとの推測を同時に行っている。本研究はこの推測を検証し脇狂言の「語り」や「囃子物」、つまり曲の留め方に起因する祝言性と曲目成立に関する問題解決の一助となるよう調査及び考察を行う。

まず小笠原(1962)の推測が天正本においてどの程度法則性があり考察に足りるのかを精査し明らかにする。具体的には中心物自体に祝言性があるかどうか囃子や歌、舞がなければ目出度い曲として固定せず「語り」が入ることで祝言性が補強され流動的であった曲が曲として成立していくのではないかという見解を天正本に依り明らかにする。

また本研究の独自性及び創造性としてテキストの他、「神物」に頻繁に使用される「連歌」の存在や能楽において必要不可欠である「型」「狂言面」等の演劇である能楽が持つ演者と舞台にまつわる祝言性にも関連があると考え、これら文字資料以外からの考察を加えることで能や大名狂言研究と比

べて研究の手が入っていない脇狂言研究に新たな視点を加えることにある。

2. 研究実施内容

法政大学能楽研究所蔵『天正狂言本』を底本として記載された脇狂言を収集し古脇狂言の語りの有無、またその祝言性について令和4年12月に行われた第65回大学院言語文化学専攻日本文学専修院生発表会にて口頭発表を行った。発表では天正本記載の冒頭から5曲を取りあげ脇狂言「今参」の祝言性と語りについての考察をあわせて取り扱った。

脇狂言はめでたさを曲の本旨としており、それぞれ異なるめでたさが発生している。「竹生嶋まふて」「大こく」「高ふたむ子」を含む神物は福神が福を授けるためにめでたく、「三人わらひ百しやう」「三人百しやう」「雁かりかね」「二人おさめ物」「もち酒」といった百姓物は領主へ嘉納する代わりに生活を保障してもらうためにめでたく、「八はたむ子」「庭島む子」「くわひ中む子」のような賀入物は賀入りという出来事自体が祝言であり各めでたさに正当な理由がある。この他、祝言の歌謡が重視される「末ひろかり」「田うへ」「こけ松」「梅ぬす人」や厄ばらいの呪術が用いられた「おせち物」等がある。しかし、「今参」において福を授けられる、賀入りをするとといった祝言性の高い出来事は起こらず、祝言の歌謡や呪術も用いられていない。代わりに使用されているものは「語り」である。

「ゝひたひこそはたかけれ ゝはちびたいてさう物」にはじまり「ひやうしとめ」で留まる、この「今参」後半の語りは「あくたい」の祝言で

ある。このように囃子物ではなく、また祝言性の高い出来事に起因せずとも、その「語り」によって「めでたさ」を発生させている曲の存在が天正本から既に確認できる。

3. まとめと今後の課題

脇狂言というジャンルにおいて主題となる祝言の要素と、主題—つまり祝言性を核にすることで曲が形成されていくこととの関連性、連動性についての調査および分析を進めていくことが本研究の指針であることを発表により再認識し、今後精力的な活動を行うとともに新たな視点として「神物」に縁のある連歌そのものについて祝言的な要素の考察と狂言に使用された連歌の本歌やモチーフの収集に努めたい。

また以前より関心を持っている、狂言を演劇として支える「型」「狂言面」等の非言語的要素がもたらす祝言の効果に関する考察に追って着手する所存である。

付記

本研究は大妻女子大学人間生活文化研究所の令和4年度大学院生研究助成(B) (課題番号:DB2214) 「天正本にみる脇狂言の祝言性と曲目成立の関係」を受けたものです。